

平成27年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	中毒情報センター情報基盤整備費			担当部局	医政局		作成責任者	
事業開始年度	昭和61年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室		室長：西嶋 康浩	
会計区分	一般会計			政策・施策名	I-1-1 日常生活圏の中で良質かつ適切な医療が効率的に提供できる体制を整備すること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	救急医療対策事業実施要綱			
主要政策・施策				主要経費	社会保障			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	化学物質等による急性中毒の治療方法等に関する情報を迅速に提供するための基盤整備を行うことで、急性中毒対策の充実を図ることを目的とする。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	公益財団法人日本中毒情報センターが行う以下の事業に必要な経費(情報システム運用経費等)について、財政支援を行う。 (1)化学物質等によって起こる急性中毒に関する情報の収集及び提供 (2)(1)により収集した情報の整理集積 (3)急性中毒に関する情報提供に必要な基礎資料の作成 (4)24時間体制で医師の適切な指示が受けられる体制の確保							
実施方法	補助							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
		当初予算	15	15	15	15	15	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
	計	15	15	15	15	15		
	執行額	15	15	15				
執行率(%)	100%	100%	100%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	検索可能な中毒原因物質名称数を前年度以上とする	検索可能な中毒原因物質名称数	成果実績	件	137,454	143,243	148,614	
			目標値	件	132,429	137,454	143,243	148,614
			達成度	%	100%	100%	100%	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
	電話相談拠点数	活動実績	ヶ所	2	2	2		
		当初見込み	ヶ所	2	2	2	2	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
	薬物中毒に対する電話相談対応数	活動実績	件	46,492	44,589	45,529		
		当初見込み	件	48,663	46,492	44,589	45,529	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込	
	X: 執行額(千円) Y: 電話相談件数(件)		単位当たりコスト	千円	0.3	0.3	-	-
	(平成26年度は電話相談対応件数の実績値を集計中、平成27年度見込は平成26年度実績値)		計算式	X/Y	14,770/46,492	14,770/44,589	-	-
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	中毒情報基盤整備事業費補助金	15	15					
	計	15	15					

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	救急医療は国民が安心して暮らしていく上で欠かすことができないものであり、国費を投入すべき	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	当該事業は、新規化学物質や薬物、殺虫剤、化粧品等の新製品について、年間約4万4千件の薬物中毒に関するデータを登録するとともに、年間4万件以上の国民・医療機関からの電話相談に対応しており、薬物中毒の発生の予防や発生時における迅速かつ適切な対応を行うために重要な役割を担っている。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	年間4万件以上の国民・医療機関からの電話相談に対応しており、薬物中毒の発生の予防や発生時における迅速かつ適切な対応を行うために重要な役割を担っており、今後も継続して事業を進めて行く必要がある。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	薬物中毒等に関する豊富な蓄積データとノウハウを有する専門的医療機関である当該法人以外では、現存する膨大な数の薬物等の中毒発生時において、迅速かつ適正な対応を図ることは困難である。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	交付要綱において、補助対象等を定めており、負担関係は妥当である。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	当該事業に必要な最低限の額で設定している。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	中毒情報基盤整備補助金交付要綱に定められた当該補助事業の対象経費を交付額の算定方法に従い、算出している。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-	-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		-	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	-	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	-	-	-		
点検・改善結果	点検結果	急性中毒にかかる検索可能な中毒原因物質名称数は、毎年増えている(平成24年度137,454件、平成25年度143,243件)となっており、引き続き、急性中毒対策の充実を着実に実施していく必要がある。また、薬物中毒に係る電話相談対応件数についても、平成24年度46,492件、平成25年度44,589件と年間4万件以上となっており、引き続き、一般市民や医療機関からの電話相談に対応していく必要がある。			
	改善の方向性	既存する製品及び新規化学物質等による急性中毒の治療法等に関する情報提供を国民・医療機関に行うための事業であり、検索可能な中毒原因物質名称数も毎年着実に伸びており、また、電話相談対応件数も年間4万件以上となっており、引き続き適切な執行を行っていく。			
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	点検結果も妥当であり、検索可能な中毒原因物質名称数は増加し、薬物中毒に係る電話相談対応件数も毎年4万件を超えている現状であり、一定の成果が出ていることから、引き続き、予算額を確保しつつ、適正な執行を行うこと。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り	-				
備考					
-					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	22	平成23年度	21	平成24年度	21
平成25年度	1	平成26年度	1		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
15百万円

【化学物質等による急性中毒の治療方法等に関する情報を迅速に提供するための基盤整備に対する補助】

↓ 【補助】

A. (公財)日本中毒情報センター
15百万円

- (1) 化学物質等によって起こる急性中毒に関する次のような情報の収集及び提供
- (2) (1)により収集した情報の整理集積
- (3) 急性中毒に関する情報提供に必要な基礎資料の作成
- (4) 24時間体制で医師の適切な指示が受けられる体制を確保する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかにつ
いて補足する)
(単位: 百万
円)

A.(公財)日本中毒情報センター			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	事業運営に係る人件費	12			
貸借料	パソコン接続使用料等	2			
その他	需用費・備品購入費等	1			
計		15	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

支出先上位10者リスト

A.	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入 札 者 数	落 札 率
1	(公財)日本中毒情報センター	中毒情報の収集・整理・情報提供	15	-	-